

## 南牧村花卉生産組合花情報(平成 27 年 4 月)

# 「なんもくの花」



群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢 70 歳以上の 16 名が 50 種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」「荒船の花」として首都圏へ出荷しています。(上の写真は 4 月下旬のオオデマリの畑です)

### 『定期研修会』

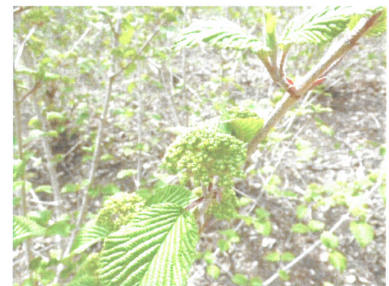
4 月 20 日、定例研修会を開催し、平成 27 年度の南牧村花卉生産組合の活動がスタートしました。組合では今年度、5～6 月の現地巡回や 7 月の先進地視察など 10 を超える事業を計画しています。月 1 回程度掲載予定のこの「花情報」も産地 PR として取り組む新たな事業の一つです。



### 『春の訪れ』

標高 300m 以上ある南牧村でも 4 月下旬には多くの宿根草や花木類の生長が始まります。しかし、芽吹いたばかりの草花は増加中のニホンジカの食害に注意が必要です。

5 月にはオオデマリやスノーボールの出荷が始まり、6 月にはスモークツリーやヒメヒマワリなどの出荷も始まります。いよいよ「なんもくの花」の本格的な出荷シーズン開幕です。



### 『新品種導入』

組合では毎年新しい品種を数品種栽培します。昨年からは今年にかけては県の農業技術センターで育成したコギク「小夏の星」の栽培に取り組んでいます。組合を設立した当初はキクの栽培が盛んでしたが今は数名しか栽培していません。「小夏の星」でキク栽培の復活なるか？

